

News release

2023年3月7日

Rocatinlimab (KHK4083/AMG 451) に関する 2023年米国皮膚科学会での発表のお知らせ

協和キリン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：宮本 昌志 以下、協和キリン）は、中等度から重度のアトピー性皮膚炎患者を対象として開発中の rocatinlimab (KHK4083/AMG 451) の Phase 2b 試験の結果が、2023年3月17日から21日までニューオーリンズで開催される米国皮膚科学会（AAD）2023年総会で発表予定であることをお知らせします。

アトピー性皮膚炎（AD）は、皮膚の発赤、そう痒、疼痛を特徴とする慢性的で不均一な炎症性疾患であり、皮膚バリア障害とT細胞依存性の炎症経路によって引き起こされます。疾患の原因となる様々な炎症反応を引き起こす経路との関連性は、個々の集団や個人によって変化することがあります。

ADは小児期に発症することが多く、小児の15～20%、成人の最大10%が罹患し、非致死性疾患としては15番目に多い疾患で、世界的に広がりを見せており、世界のAD患者の約3人に1人が中等症から重症であるとされています。有効な治療薬がある一方で、様々なタイプの患者さんに持続的な効果をもたらし、高い有効性と忍容性を有する新規治療薬がもためられています。

演題： Rocatinlimab demonstrates a significant reduction in IgE concentrations in addition to clinical efficacy measures in patients with moderate-severe atopic dermatitis (msAD) in a randomised, double-blind, placebo-controlled Phase 2 trial

演者： Emma Guttman-Yassky, MD, PhD., Camilla Chong, MD, DipPM, MFPM, Ehsanollah Esfandiari, MD, PhD

発表日： 米国中部時間3月17日（金）

演題： Rocatinlimab demonstrates improvements in patient-reported outcomes in adult patients with moderate-severe atopic dermatitis in a Phase 2 trial

演者： Eric Simpson, MD, MCR, Angela Williams, PhD., Camilla Chong, MD, DipPM, MFPM, Ehsanollah Esfandiari, MD, PhD.

発表日： 米国中部時間3月17日（金）

rocatinlimab について

rocatinlimab (KHK4083/AMG 451) は、現在開発中のファーストインクラスになりうるヒト型抗 OX40 モノクローナル抗体であり、全身および局所の炎症反応を促進する役割を担っている OX40 を発現した病原性 T 細胞を阻害し、またその数を減少させます。

アトピー性皮膚炎の病変部には、OX40 を発現した細胞が存在し、その発症に重要な役割を果たしていることが報告されています。

初期の抗体は当社の米国研究チームとラホヤ免疫研究所の共同研究により見いだされました。

アムジェン社と協和キリン社の提携について

2021 年 6 月 1 日、協和キリンとアムジェンは rocatinlimab の共同開発・販売に関する契約を締結しました。本契約に基づき、アムジェンは本剤の開発、製造、および協和キリンが単独で販売活動を担当する日本を除くグローバルでの販売活動を主導します。両社は米国において本剤のコ・プロモーションを行い、協和キリンは米国以外（日本を除く欧州およびアジア）においてコ・プロモーションを行う権利を有しています。